

けんこうニュース

発行所

奥津医院

南足柄市生駒 381
電話 0465-74-0024
発行人 奥津紀一

神奈川県プライマリケア学会
「糖尿病診療に検診が役立つ」
院長が講演

三月二十二日、横浜市で開催された、第四十三回日本プライマリケア学会神奈川支部学術集会のシンポジウム「二十一世紀に向けての検診事業」の中で「足柄上医師会における糖尿病対策」という演題で当地区の糖尿病対策について述べ、市や町で把握している糖尿病患者の医療機関受診率が八十六%であり、医療機関で新規発見患者の二十四%が検診で指摘されているこ



とから当地区の糖尿病の診療に検診の果たす役割は多いと報告した。

足柄上医師会学術講演会
「痴呆老人ケアのポイント」
東京都老人総合研究所
中里克治先生

三月九日、開成町福祉会館で開催。

老年医学は健康で長生きすることをめざしている。最近では八十才までは、身体的にも精神的にも健康で保たれると考えられている。

新しいことを覚える能力は六十五才を過ぎると低下するが、経験を生かしてゆく能力の低下は少ない。

そこで、痴呆老人に接する時の注意事項は、残っている能力を良く知りそれをできる



だけ活用し、身体や生活能力の障害に対し手厚くサポートすることがポイント。

自尊心や、人間関係を大切にして、安心できる環境をつくりだすことが大切だと講演された。

第十五回わかりやすい医学講話
「出血性大腸菌 O-157」
感染とその予防について

足柄上医師会が毎年一回開催しております。一般住民の皆様向けの講演会です。

昨年の夏、いろいろ話題となりましたO-157感染症の問題はまだまだ解決しておりません。また今年も、なま物を食べる機会が多くなる、夏期には、この対策が問題になると思われます。そこで、この問題の専門家

にお願いし、そのひきおこす病気の問題点と対策について、お聴きすることになりました。どうぞ多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時

平成九年七月十九日(土)
午後二時から三時三十分

大井町 中央公民館

講師 横浜市立大学講師

横田俊平先生

湧言飛語



院長

「医者はその手助けをするだけだ。」とよく言われますが、私達内科医の分野ではそういうことが多いようです。

この「手助け」というのがなかなかむずかしい。ついつい指導とか教育などといった感じになつてしまふ。下手をすると強制、おどしになりかねない。

市川さん宅でフォルクロレのコンサートに参加させていただいた時、この演奏家は市川さんの心を深く捉えているのが分かった。

接触の機会が多い私よりもずっと深く心の中に入り込んでいる。こういう身体的にむづかしい条件におかれている人達と心の交流を持つには、もつと細かい心づかいが必要なのだ。

患者さんとの心の交流なくしては、治療の手助けなど、とてもできない。



初夏